

ОСОБЕННОСТИ ПЕРЕВОДА ЕВАНГЕЛИЯ НА ЯПОНСКИЙ ЯЗЫК

Статья посвящена исследованию особенностей перевода канонических христианских текстов на японский язык. На основе лексико-семантического и структурно-стилистического анализа переводимого текста определены и описаны некоторые специфические особенности и проблемы перевода, а также способы их решения в переводах разных христианских конфессий.

Ключевые слова: *Евангелие, японский язык, перевод, Молитва Господня, притчи*

E. Kozzyrev, graduate student
National Taras Shevchenko University of Kyiv, Kyiv

LINGUISTIC PECULIARITIES OF GOSPELS TRANSLATION INTO JAPANESE

The article is devoted to the peculiarities of translating the canonical Christian texts into Japanese. Basing on the lexical-semantic, structural and stylistic analysis of the translated text some distinctive features of translations as well as some problems of translation and their solutions are described.

Keywords: *Gospel, the Japanese language, translation, Lord's Prayer, the parables*

УДК 316.36

КОЛУМШ・ОРИГА、講師
キエフ国立言語大学

親の子にたいする愛情表現の諸特性にかんする考察 -日本とウクライナの比較をとおして-

本研究では、ウクライナと日本の親子の愛情表現の方法を比較した。両国で認められている愛情を表す行為を子育てに関する本やアドバイス集で調べた。アンケート調査を行って、実際に日本とウクライナにおける、親と子どもとの間の愛情表現の比較を行った。

キーワード：親子関係、愛情表現、スキンシップ。

1. はじめに

私は日本の電車やお店、遊園地などでよく親子を見かけた。少し観察すると、驚くこともたくさんあった。母国のウクライナ人の親子と違って、日本人の両親はあまり子どもとキスをしたりハグをしたりしないと気付いたのだ。しかも、たまに携帯電話に夢中でメッセージを送ったりして、自分の子どもを無視している母親たちさえ見かける。また、日本人の友だちと話して、母親と父親に「パパもママも〇〇ちゃん大好き！」と、子どものころに言われたことがあまりなかったということを知った。

ウクライナ人と比べてハグやキス、愛情表現の言葉をあまり経験していない日本人は、どうやって両親に愛されているとわかるのだろうか。日本人の親もウクライナ人の親も自分の子どもを同じくらい愛していると思うので、愛情表現が違

うのではないだろうかと考えた。そこで、日本とウクライナの親の愛情表現に強い好奇心を持って、研究のテーマに選んだ。

両親にとっては、自分の子どもがかわいくて仕方がないのは当たり前のことだ。子どもの世話をして、子どもに様々なことをしてやるのも自然の気持ちである。このような気持ちや行為が一般的に「親の愛情」と呼ばれている。本研究ではそのような親の行為を「親子の愛情表現」と定義にして、それについて調べたいと思う。

2. 愛情の伝え方についての先行研究

2.1 日本の愛情表現

親は自分の子どもが好きなので、子どものために努力している。厳しくしつめて、色々なことをやらせていることも少なくない。それを全て自分の子どもへの愛情だと考えている。しかし、阪井敏郎（1969年）によれば、親の子に対する行為は、「真実の愛」（本当の愛）と「虚偽の愛」（ニセの愛）に分けられる。現代の日本では、子どもを教育するのが最も大事な親の役割だと考えているようだ。そして、子どもにスポーツや音楽をやらせたり、勉強させたりするのは、多くの親が本当の愛だと思っている。しかし、それは親の本当の愛ではなく、ニセの愛だ。では、日本の社会学者や心理学者は、「本当の愛」を表す行為というのはどんな行為だと考えているのだろうか。その答えを日本の両親向けの本やアドバイス集で調べてみた。阪井（2011）と明橋（2005、2006）に書いてある様々なアドバイスをまとめてみると、以下のとおりである。

1) 徹底的に甘えさせる

10歳までの子どもを甘えさせるのは、どうしても必要なことである。甘えさせるのは、甘やかすのと違って、子どものペースを尊重することである。徹底的に甘えさせられた子どもが自分は愛されていると感じている。また、自分は愛される価値のある存在だと感じている。

2) 一緒に時間を過ごす

アメリカの研究によれば、親と過ごす時間が長いほど、子どもは発育がよく、発達も早いということが明らかにされている。

3) ほほえみ

母親は、子どもが3歳くらいのときまでは、子どもにとっても優しい声で話しかけている。しかし、その後、他の子と比べ始めて、叱るようになる。優しいお母さんが急に厳しくなるので、子どもが驚く。自分のことがもう愛されていないのではないかと考え始めるので、子どもが3歳過ぎても、10歳過ぎても、お母さんのほほえみは愛情の一つの証拠となる。

4) 子どもの話を聞く

子どもにとって親はやはり言葉の先生であるので、子どもが小さいうちにたくさん話しかけなければならない。

5) 褒める

子どもにとって褒められることは、非常に重要である。親に褒められることで、自分が価値のある子どもであり、役に立っていると感じる。

6) 感謝の気持ちやごほうび

「ありがとう」という言葉は、非常に重要である。特に、自己評価の低い子どもは、感謝の言葉を言われると、うれしくなる。自分の存在は親にとって大切だと感じて、自己評価が高くなる。

7) 手をつなぐ

子どもが小学生になっても、周りに危ないことはたくさんある。危ないところでは、両親は、きちんと子どもの手をつながなければならない。危ないから、親が心配しているという気持ちが子どもに伝わる。

8) お風呂に入ることと一緒に寝ること

子どもが長い時間、親と一緒に寝ることは、やはり日本の子育ての一つの習慣とも言える。親と寝ることで子どもが安心できるので、非常に大事なスキンシップである。また、父親と一緒にお風呂に入ると、母親に言えないことについて話せる。大切な話を聞いてもらったので、子どもはうれしく、やはり愛されていると感じる。

以上をまとめると、日本では、家族で愛について話したりするより親の愛情を行為で表したほうが良いと考えられている。子どもを十分に甘えさせたり、褒めたりして、感謝の気持ちを伝えたりすることなどが必要だとされている。

2.2 ウクライナの愛情表現

もともとソ連の一部であったウクライナと隣のロシアの親子関係では、まだ大きなずれは見られないと言われている。そのため、ウクライナ人の愛情表現については、ウクライナの著者だけではなく、ロシアの研究者の本でも調べた。

ウクライナでは、日本と同じようにできるだけたくさん子どもと一緒に時間を過ごすのが非常に大切だと考えられている。親は、子どもと一緒に時間を過ごせば過ごすほど、子どもの心がわかってくる。そして、子どもを理解できるようになる。親に理解されている子どもが愛されていることも感じる。

子どもの意見を尊重し、子どもと相談するのが良い愛情表現の方法である。また、子どもを褒めるのが日本と同じように大事だと考えられている。そして、何かすでに出来ていることを褒めるだけではなく、頑張ったことや努力も必ず褒めることが大切なポイントである。

スキンシップは、やはり愛情表現の大事な一部だと思われている。アメリカの社会学者バージニア・サティールは、家庭内に健全な関係を作り出す方法があると主張している。子どもは、生存のために1日4回、今の状態を維持するために8回、そして成長のために12回、受容を必要としていると彼女は言う。ウクライナでは、その言葉が有名である。キスやハグだけではなく、髪をなでることや父親とゲームとして戦うことなどが非常に大切だと思われている。

以上をまとめると、ウクライナでは愛情を表す行為が大切だと思われているが、愛情をスキンシップや言葉で表すのも非常に必要という考えが強いとわかった。

3. アンケート調査

3.1 調査方法

調査対象者は、日本とウクライナにおける、18歳から23歳までの男女である。日本人には日本語、ウクライナ人にはウクライナ語でアンケートを行った。

アンケート調査は平成24年5月に行い、回答者は76人。回答者に自分の小学校低中学年を思い出して回答してもらった。回答者の国の区別及び性別は以下のとおりである。

表1. 回答者の性別

	男性	女性	計
日本	20	21	41
ウクライナ	16	19	35

3.2 結果及び考察

3.2.1 親と子どもの生活と接触の実態

親と子どもの接触を調べるために、まず、「あなたは、母親あるいは父親と一緒に、おしゃべりしたり、遊んだり、勉強を教えてもらったことが一日のうち、だいたいどのくらいありましたか?」と尋ねた。

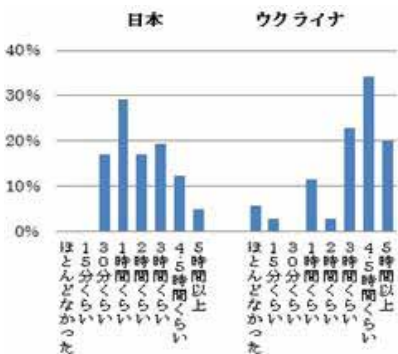


図1.1 親との接触時間（平日の場合） 図1.2 親との接触時間（休みの日の場合）

図1.1のとおり、平日の場合は、日本では「1時間くらい」と答えた人が最も多く、29%となっている。ウクライナでは「3時間」から「5時間以上」までをあげる人がそれぞれ多く、「1時間くらい」という人が11%、日本の半数程度である。

休みの日の場合は、日本では親と一緒に過ごしたのが「4-5時間」と「5時間」と答えた人が多く、それぞれ22%と24%である。ウクライナでは、「5時間」という人が最も多く、その割合は69%となっている。一緒に過ごすことが「ほとんどなかった」という人は、日本(2%)でもウクライナ(3%)でも少ないとわかった。

このように、休みの日には、親と接する時間は両国に多いが、平日となると、日本では3割近くの人は親と1時間しか過ごせず、日本のほうが短い。

日常生活において、親と子どもが共に行う行動の頻度を調べるために次の質問をした。「あなたは、以下のようなことを、母親あるいは父親と一緒にどれくらいしていましたか？」

- a) 一緒に夕食をとった
- b) 一緒におしゃべりした

「ほぼ毎日」「週に3・4回」「週に1・2回」「月に1・2回」「たまにあった」「全くなかった」から最も当てはまるものを選んでもらった。

まず、夕食についての結果を説明する。

両国とも「ほぼ毎日」と「週3・4回」一緒に夕食をとったと答えた人が多く、「全くなかった」と答えた人はいなかった。

一緒におしゃべりすることについては、両国とも「ほぼ毎日」していたとする者が多い。その割合は、日本では88%、ウクライナでは94%である。

さらに「あなたは一年間の間に家族と泊りがけの旅行をしましたか」という質問に対して、日本でもウクライナでも「はい」と答えた人が多く、その割合でも83%、80%とあまり差が見られなかった。

3.2.2 親と子どものスキンシップ

スキンシップは親子にとって大事な行為であり、愛情表現の一部だと考えられる。そのため私が子どものころ経験したスキンシップの種類を思い出し、まとめてみた。そして、日本人とウクライナ人によく経験したことを選んでもらった。結果は、表2のとおりである。

表2. スキンシップ

(%)

	日本	ウクライナ
親に頭をなでられたこと	49	60
親に髪をなでられたこと	20	46
親に肩を軽くたたかれたこと	22	29
親と手をつないだこと	23	40
親と一緒に寝たこと	71	23
親と一緒にお風呂に入ったこと	63	3

表2を見ると、両国とも「親に頭をなでられたこと」を経験した人が多いとわかる。日本では半数近くとなり、ウクライナでは6割である。また、ウクライナ人の半数近くが髪をなでられたことを経験したとする。一方、日本ではその割合が低く、2割しかいない。

日本の場合、親と一緒に寝ることやお風呂に入ることをよく経験したと答えた人が多く、その割合がそれぞれ71%と63%である。親と一緒に寝たり、お風呂に入ったりする習慣がないウクライナでは、その割合が低く、親とお風呂に入ったことを経験した人がわずか3%である。

両国の本や両親向けのアドバイス集では、子どもと手をつなぐことが非常に大事だと書いてある。しかし実際にそれを小学校低学年のときに経験した人は意外と少ないことがわかった。ただし、その割合をみると、日本では23%であるのに対し、ウクライナでは2倍の4割となっている。

次に、私が最初から気になっていたキスやハグについて尋ねた。

「親はあなたにキスしましたか」という質問に対し、日本人とウクライナ人の答えには、大きな差が見られる。キスしたことがあると答えたウクライナ人は86%である。一方、日本では全く反対の傾向が見られる。キスしたことないと答えた人が9割近くとなっている。「はい」と答えたのは、41人のうちにわずか5人だ。その5人にさらに「どのくらいキスしましたか」と尋ねてみた。その結果、5人のうち1人が「年に1回くらい」、2人が「月に1回くらい」と答えた。残りの2人だけが「1日1回」と答えた。

一方、ウクライナ人では同じ質問に対し、「1日2・3回」と「1日5・6回」という答えが多かった。

また、ハグの結果をみても、キスと大きな差がないとわかる。ウクライナ人では、親とハグしたことがあると答えた人の割合が9割を超えている。それに対して、日本人ではしたことがあると答えた人は、わずか17%であり、したことがないと答えた人は83%だった。

「どのような場合にハグしましたか」という質問に対して、日本人は「転んでけがしたとき」、「慰めとして」、「励ましとして」と答えた。一方、ウクライナ人では「特に理由なし」という答えが多かった。

さらに自分が将来、親になった時、「あなたは、子どもをキスしたりハグしたりすることは大切だと思いますか?」と聞いた。

ウクライナ人の97%がキスもハグも大切だと考えている。一方、「必要だと思う」と答えた日本人の割合は、37%である。24%がハグは大切だが、キスは必要ないと考えている。そして、最も多い39%が両方必要ないと答えた。

このように、ウクライナ人にとって、キスとハグは大切な愛の表し方だということがわかった。一日に何回もキスをしたり、理由なしにハグをしたりする。日本ではそのような傾向がみられない。多くの人が子どもにキスすることも、ハグすることも必要ではないと考えている。

3.2.3 親と子どもの感情面でのつながり

本節では、親子の感情面でのつながりについて探っていく。

回答者に「親は、あなたが悲しい時や困った時になぐさめてくれましたか?」と尋ねた。

子どもが悲しい時や困った時になぐさめてくれた親は両国とも多い。しかし、その割合を見ると、日本は76%であるのに対し、ウクライナでは91%もあり、日本はウクライナに比べ少し低い。

さらに、両親があなたのことを好きだと感じたかどうかについて尋ねた。この質問では、回答者が子どものころに親が子どもに向けている愛情を受け止めていたかについて検討した。

ウクライナ人と日本人の答えの割合には、あまり大きな差が見られない。日本人の85%、ウクライナ人の94%が、子どものころに親に愛されたと感じていたと回答している。

しかし、「母親あるいは父親は、あなたのことを『好き』だと言葉にしてみましたか?」という質問に対し、ウクライナ人と日本人の答えでは、大きな差が見られる。

ウクライナ人の6割近くが「よく言った」と答えた。「全く言わなかった」とあげた人は少なく、1割に満たない。一方、日本人では「全く言わなかった」と「あまり言わなかった」という答えが多く、その割合は、それぞれ22%と44%である。よく「好き」と言われた人が一番少なく、わずか7%である。

最後に、両国の人に「あなたの親は、あなたへの愛情をどのように表しましたか？」と尋ねてみた。その結果、ウクライナ人では「心配してくれた」、「手伝ってくれた」と「応援してくれた」という答えが最も多かった。また、「なぐさめてくれた」、「キスしてくれた」、「プレゼントしてくれた」をあげた人も多かった。一方、日本人の半数近くが「料理を作ってくれた」あるいは「一緒に料理を食べていた」とあげた。「たくさんしゃべってくれた」、「信じてくれた」、「叱ってくれた」という答えも多く見られた。

4. おわりに

親が子に対して愛情を注ぐ。これは万国共通、人間の本能的なことであろう。今回のアンケート調査では、直接、ウクライナと日本における「親の愛情」の深さの違いを示すには至らなかった。だが、少なくとも、両国の子どもが親の愛情を感じた割合の差はわずか9%であるとわかった。両国の「親の愛情」の度合いに差はなく、かつ、多くの親が子どもに愛情を注いでいると間接的に示す結果となったと言える。

ウクライナと日本のスキンシップの取り方の違いは、私が抱いた印象どおりの結果となった。キス・ハグの経験者は、日本では2割を下回るのに対し、ウクライナでは8割を超える。ウクライナでは、ほぼ全員がキス・ハグの必要性を感じているのに対し、日本では4割弱しかその必要性を感じていると回答しなかった。日本人は、キス・ハグ経験者が2割に満たないにもかかわらず、4割近くが「必要だ」と考えている。この現象自体が研究の対象となりうるだろう。

両親が「好き」と言葉にするかについても、スキンシップ同様、両国間で明確な違いが現われた。印象どおり、日本人の6割強が言われなかったのに対し、ウクライナ人の約8割が言われた経験があるという結果となった。

しかし、特筆すべきは「あなたの親はあなたへの愛情表現をどのように表しましたか？」という問いへの回答だ。ウクライナ人の多くは「心配してくれた」、「手伝ってくれた」、「応援してくれた」と答えた。必ずしもスキンシップや「好き」という言葉によって「親の愛情」を感じているわけではないようだ。

さらに、本研究を通して子どもは、スキンシップや、「好き」という言葉などの愛情表現を、どのように消化しているのか、また、彼らの発育にとってどのように役立っているのかなどのような疑問が浮かび上がってきた。これらの愛情表現が“ない”日本と、“ある”ウクライナを比較することによって、疑問を解決することができるのではないかと思うので、このことは今後の課題とした。

参考文献

1. Гиппенрейтер Ю. Общаться с ребенком. Как? / Юлия Борисовна Гиппенрейтер. — М.: АСТ, 2011 г. — 352 с.
2. Комаровский Е. Здоровье ребенка и здравый смысл его родственников / Евгений Олегович Комаровский. — М.: Эксмо, 2011 г. — 592 с.
3. Корчак Я. Как любить ребенка / Януш Корчак. — М.: АСТ, 2009 г. — 272 с.
4. Сухомлинский В.А. Мудрость родительской любви / Василий Александрович Сухомлинский. — М.: Молодая гвардия, 1988 г. — 304 с.
5. 明橋 大二 (2001) 『子育てハッピーアドバイス』1万年堂出版
6. 明橋 大二 (2001) 『子育てハッピーアドバイス3』1万年堂出版
7. 阪井 敏郎 (1969) 『愛の社会学：家庭のなかの親子関係』法律文化社
8. 外山 滋比古 (2011) 『子育てのヒント』新学社
9. 菅原 裕子 (2007) 『子どもの心のコーチング』PHP研究所

O. Kormush, викладач

Київський національний лінгвістичний університет

ПОРІВНЯННЯ СПОСОБІВ ПРОЯВУ БАТЬКІВСЬКОЇ ЛЮБОВІ ДО ДИТИНИ В ЯПОНСЬКІЙ ТА УКРАЇНСЬКІЙ РОДИНАХ

Статтю присвячено порівнянню способів вираження батьківської любові до дітей в японській та українській родині. На матеріалі підручників та збірників порад для батьків досліджені способи, що рекомендуються батькам обох країн. За результатами анкетування зроблено спробу порівняти способи вираження батьківської любові в Японії та Україні.

Ключові слова: стосунки між батьками та дітьми, способи вираження любові, тілесне спілкування.

O. Kormush, teacher

Kyiv National Linguistic University

THE WAYS OF PARENTAL EXPRESSIONS OF LOVE TO CHILDREN: THE COMPARISON BETWEEN UKRAINIAN AND JAPANESE FAMILIES

This article is devoted to the problem of parental love expressions in Japanese and Ukrainian families. Using parenting advice books we researched love expression ways that are recommended in both countries. We also conducted a questionnaire survey to compare differences between love expression ways in Japanese and Ukrainian families.

Key words: parent-child relationships, ways of love expression, touching.